

フィールドサインシリーズ
エゾモモンガを探せ！

エゾモモンガは、ふおれすと鉱山のまわりにも生息しています。夜行性の野生動物であり、ほとんど樹上で過ごしているため、なかなかホンモノに会うことは難しいですが、森の中にエゾモモンガが来た証拠が残っているかも！



撮影者：遠藤潤

エゾモモンガ *Pteromys volans orii*
ネズミ（げっ歯）目リス科モモンガ属

特徴：目が大きい、飛膜がある、夜行性
頭胴長15～16cm／尾長10～12cm／体重100gくらい
住みか：樹洞（じゅどう）
食べ物：樹木の芽、葉、樹皮、種子、果実、きのこ、たまに昆虫など

エゾモモンガがいた・来た証拠は、**コレだ！**

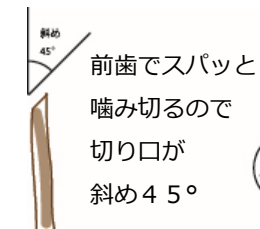
森の中には、エゾモモンガが来た証拠（痕跡）が残っています。それは、食べあと（食痕）、糞（うんち）などです。



食痕は、トドマツ、ヨーロッパトウヒなどの針葉樹、ヤマモミジやケヤマハンノキ、ダケカンバの広葉樹の木の下に落ちています。木の芽や枝の樹皮を食べた跡も落ちていることがあります。雪の上に落ちていると見つけやすいですが、夏の森でもよく探せばみつけることも。



樹木の幹や枝が分かれている根本（また）などに、お米くらいの大きさの糞があったら、エゾモモンガの糞。同じところをトイレとして使う習性があるので、何日か分たまっていることがあります。積雪期には、黄色やオレンジのおしっこしたあとが残っているかも。



ココが
Point!



フィールドサインシリーズ エゾシカを探せ！

エゾシカをみたことがある人は多いはず。

エゾシカは数を増やし、今では、北海道のどこでも見られる野生動物となりました。ふおれすと鉾山のまわりでも、エゾシカが残した証拠をたくさん見つけることができます。身近なところで、探してみましよう。



撮影者：遠藤潤

エゾシカ *Cervus nippon yesoensis* 鯨偶蹄目シカ科シカ属

特徴：夏毛は茶色、冬毛は灰褐色 群れで行動することが多い
オスは角を持つ（年齢に応じて大きさや形が変わる）
頭銅長140～180cm／尾長13cmくらい／体重70～140kgくらい
住みか：草地、森林（夏と秋の生息地は移動することもある）
食べ物：草本、樹木の皮、ササなど、あまり好きじゃないもの以外、
多種多様に食べる

発刊 登別市ネイチャーセンターふおれすと鉾山

エゾシカが いた・来た証拠は、**コレだ！**

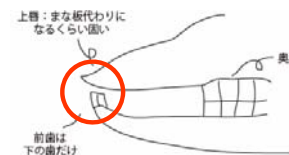
比較的に見つけやすいのは、糞（うんち）。また、食べ跡（食痕）や角こすり跡も見つけやすいです。季節によっては、抜け落ちた角を見つけたり、森中に響くオスの鳴き声を聞くことができます。見つけたもので、エゾシカがどんな行動をしているか、想像してみましよう。

糞の写真

グラウンドや草むらに、コロコロした丸い糞が落ちています。だいたいがエゾシカの糞。中には、緑色でべちゃっとした糞やコロコロした糞がまとまって落ちていることもあります。

角こすりの写真

樹皮を食べる時も、下の前歯を使って上手に食べます。食べ跡をよく見ると、彫刻刀で彫ったような歯型を見つけることができます。ほかにも、木の幹に深い傷跡をつける角のこすり跡も見つけることができます。



ココが Point!

木にあいた穴、洞を探せ！

木にあいた穴のことを、洞（うろ）または樹洞（じゅどう）といいます。枝が折れたり腐ったりして自然に落ちてできる洞もありますが、「ダレか」が「ナニか」をしてできた洞もあります。そして、その洞は、森のイキモノたちの暮らしに役に立っています。

木に穴をあけるイキモノ（主に野鳥）たち



アカゲラ *Dendrocopos major*
キツツキ目キツツキ科アカゲラ属
特徴：おしりの部分が赤い。オスは後頭が赤いが、メスは後頭に赤い部分はない。鉦山地区では比較的観察されやすい。



クマゲラ *Dryocopus martius*
キツツキ目キツツキ科クマゲラ属
特徴：日本産のキツツキ類中、最大。キョーン、キョーンと鳴く。鉦山地区では珍しい。



ヤマゲラ *Picus canus*
キツツキ目キツツキ科アオゲラ属
特徴：全体的に緑色のキツツキ。鉦山地区の春先にはさえずりとドラミングが響き渡る。

撮影者：遠藤潤

発刊 登別市ネイチャーセンターふおれすと鉦山

木にあいた穴「洞」は、

コシだ！

穴をあけることができるのは、主にキツツキの仲間です。あけられた穴は、他のイキモノたちも上手に活用しています。



キツツキの仲間は、くちばしで木に穴をあけることができます。木の中に潜んでいる大好物の虫をとるためにあけたり、たまごを生んで育てる巣をつくるためにあけたり。これは、アカゲラの巣穴。入り口の大きさは4~5cmくらい、天敵が入らないように自分がやっと潜り込める大きさにあけます。



これは、クマゲラが木の中に潜んでいる昆虫（カミキリムシの幼虫やムネアカオオアリなど）を食べるために、あけた穴です。クマゲラはアイヌ語でチブタ・チカブ（舟・彫る・鳥）と呼ばれています。その名のとおり、大きくて深い穴をあけることがあります。



こうしてできた洞は、他のイキモノたちも上手に活用しています。写真は、アカゲラ
の古巣をヒガラが使おうかのぞきにきたところ。ほかに、ヒメネズミ、コウモリなども洞を使います。自然にできた大きな洞は、フクロウやテンなども使います。

ココが
Point!